

法人事業報告 <令和6年4月～令和7年3月>

社会福祉法人本部

令和7年5月16日 作成者：内海隆弘

	事業計画報告	収益計画報告
法人全体業務報告	① 令和6年度は、新型コロナウイルスの感染は時々スタッフや他事業者デイサービスからのケアハウスご入居者への感染は見られたが、特養やグループホームの入所者への感染拡大は1例もなかった。今後も状況をみながら感染防止対策を継続する。 ② 令和6年度は、令和5年6月より閉鎖していた特養新館2階ユニットを、1年半ぶりに令和6年12月より新館2階へのご入居者の受け入れを、2名から開始した。	① ご入居者の確保：左記の通り、令和6年度は特養新館2階の10床を閉鎖して以来、1年半ぶりにご入居者の受け入れを開始した。これにより、ユニット閉鎖分の減収を少しずつ解消して来た。ケアハウスのご入居者も50名中48名まで常時維持することが出来た。特養・グループホームも、なるべく空床を作らず、満床に出来ていない新館2階以外の居室のフル稼働に努めた。また、東月限の介護相談センターを閉鎖し、減収の解消に努めた。 ② 経費削減：来年度からの電気料金の値上げも決まっている中で、ケアハウスの廊下や、特養ご入居者不在時のフロアの冷暖房OFF等の努力を行なった。 ③物価高騰支援対策補助金を活用し、物価高騰に対する補充を行なった。
課題と対策	① 上記の通り、新型コロナウイルスへの警戒は今後も必要である。現在はコロナワクチン接種が1年に1回となっているが、今後も自己負担分の法人による費用負担も視野に入れつつ、ワクチン接種の機会を確保して行く。また、全事業所・全職員が気を緩めることなく、法人内のコロナ再発防止を徹底していく。スタッフには、2週間に1回、隔週水曜日の抗原検査によるスクリーニングを継続する。他にも、体調不良時や県外への外出時等、必要に応じて抗原検査を行なう。さらに、インフルエンザやノロウイルス、疥癬等に対しても注意していく。 ② 特養新館2階のご入居者受け入れを再開したが、まだ満床には至っていない。スタッフを補充し、満床を目指す。昨今の少子化による、介護福祉士養成校の日本人学生の減少や学校の閉鎖と、外国人留学生の増加もあり、外国人スタッフの比率は今後も上昇していく事が予想される。	① スタッフの確保：スタッフの人員不足の中で、中途採用については、人材紹介会社の利用や、パコラ等の求人媒体に募集をかけながら補充を行ない、新館2階を再開させた。今後は早期の満床を目指す。新卒採用については、今年度も介護福祉士養成校に出向き、引き続き更なるパイプ作りを行ない、採用増を目指す。また、令和6年1月よりフィリピンからの特定技能スタッフを4名採用した。彼女達は言葉の壁はあるも、明るく仕事熱心であり、今年度から夜勤にも一人で入るようになった。さらに、フィリピンからの特定技能スタッフの追加採用も行う。 ② ご入居者の確保：昨年度同様、特養・ケアハウス・グループホームへのご入居希望者を確保するため、地域包括支援センター等への情報提供・情報収集を行なう。また、ショートステイの長期利用を活用して、グループホーム、特養の待機を増やす。

令和6年度 部門別事業報告書

特別養護老人ホーム 部門

作成責任者 竹島 奈津

作成年月日 令和6年5月14日

		事業計画	事業報告
業務改善内容		○感染性胃腸炎やインフルエンザ等も含めた感染予防対策の徹底 ○入退院、入退所の業務を円滑に行う ○各委員会活動を充実させる ○ノーリフトケアの普及・実践 ○職員が安心して働ける環境作り	○感染対策の周知と情報収集・情報共有をした ○入院からの退所や、看取りが多く、人員不足もあり入所業務が円滑に行えなかった ○特養内の委員会活動を毎月実施し活性化を図れた ○介護DX研修やノーリフトケアの研修や施設見学を実施した ○ユニットリーダーを中心に職員の状況を把握し情報共有した
具体的活動内容		○標準感染予防策の徹底と感染状況に応じた対策を実施する ○各委員会での自発的な取り組みを積極的に行う ○ノーリフトケアを正しく理解し教育・実践する ○職員の心身状態を把握し必要に応じて面談を実施する。ユニットリーダーと相談員で連携を図り職員を支援する。 ○医療機関や介護事業所と密に連絡調整し情報収集を行い、施設内で情報共有し円滑に受け入れ態勢を整える ○移乗等の介助方法はご入所者個別のケースにも対応できるようにノーリフティング実施状況・方法の情報共有し実践を行う	○感染対策は概ね実施できており、施設内での感染症蔓延もない ○委員会は定期開催とし、サブリーダーを委員長として活動の幅を増やしていったが、活動の意義、目的、目標等の理解は個人差があり、今後のサブリーダー育成の課題である ○床走行式リフト導入と定着に力を入れた。抱えない、不良姿勢を作らない事を目標に次年度も継続していく ○職員のフォローはリーダーと連携を図り早めの対応ができた、また面談が必要なスタッフには個人的に面談を実施した ○長期入院やご家族のご意向等もあり円滑に実施できないこともあったが、連絡調整と情報収集・情報共有はできている ○床走行式リフト導入で、ノーリフトケアに大きな変化があったが情報共有、個別ケア、ケアの見直しは随時行えた
今期の目標・計画	収益計画	387,017,736 円（地域密着型を含む）	237,262,961 円（地域密着型を含む）
	設備計画	○備品管理を行う ○ノーリフティングケアに必要な物品は購入する	○備品の使用状況の把握と整理を実施した ○床走行式リフトを購入に伴い備品の保管管理を実施している

	研修計画	○委員会やユニットの状況に応じた研修に参加を促す。職員の興味・関心にも配慮しながら研修案内をする。	○法定研修以外には、介護 DX プロジェクトで大分の大翔会への施設見学をリーダーや多職種で実施。また、ノーリフト協会理事を施設にお呼びし座学と現場視察を行って頂いた。最先端の技術や新しい介護への挑戦に職員の意欲向上につながった
	要員計画	○新入職員の育成を行う ○特定技能スタッフへの基本的介護技術の指導 ○職員配置の再検討を行う ○中途採用者に対し経歴に応じた指導・教育を行う	○新入職員への指導・育成はユニット中心に行えている ○特定技能スタッフ入職 1 年経過し、日勤帯業務は問題なく行えている。夜間帯 1 人で緊急時対応が難しい為、体制を変更、フリー夜勤を配置した ○職員配置に気を配り随時検討している ○中途採用の職員は業務内容が合わず定着しないことがあった
	その他	○季節に応じてユニット単位での行事を行う ○特養全体での行事を企画し交流の場を提供する ○カモミールを通常運転させるための人員確保と職員教育 ○介護職員が正確にご利用者のアセスメントができるよう指導する	○ユニット単位で季節行事や誕生祝いなど実施し、全体では相談員が中心となり職員・ご入所者対象とした行事を開催し交流と楽しみの提供ができた。また、外出支援を積極的に行った ○1 2 月よりカモミール再開、今後は満床を目標に人員確保、職員育成を行っていく ○アセスメントやカンファレンス時に指導や教育をしているが、理解力や知識に差があり、育成が必要と感じる。

令和 6 年度 部門別事業報告書

グループホーム 部門

作成責任者 江藤 米子

作成年月日 令和 7 年 5 月 20 日

		報告内容
業務改善報告		・入院者が多くそのまま退去になる方が 6 名、空室になってもご入居に時間を要したことが売り上げ減の大きな要因となった。 ・業務改善については、スタッフの意見を取り入れながら改善行ったが人員不足と重なり上手く改善に繋がらなかった。 ・本年度は外部研修 4 件にとどまった。 ・施設内での各委員会からの回覧での情報配信、ベテランスタッフからの知識、技術の指導で向上を図った。 ・地域との連携は感染対策を取りながら少しづつではあるが連携をとる様に行った。又、運営推進会議は開催出来た。 ・大雨による避難指示が出た想定で非常災害時の訓練を行った。 ・外部評価は本年度は免除となる。
具体的活動内容報告		・転倒を防ぐため危険と思えるところは、その都度職員で話し合いを行い環境整備しました。 ・ご入居者の日頃の様子観察を強化し早期の受診、入院に繋がった。 ・離園防止のために情報の共有、伝達をスタッフ間徹底し所在確認の徹底を図った。 ・人員不足のため定期的な勉強会は出来なかったが話し合いの場は設ける事は出来た。 ・移動売店の利用を希望のご入居者に提供出来ている。又、運営推進会議は 2 ヶ月に一度開催出来た。 ・非常時の避難訓練を行った (R6.4 月) ・感染予防に注意しながら、ご入居者様の初詣、花見ドライブは行えた。レクリエーションは毎日行えた。
今期の計画・目標達成状況	収益計画	・令和 6 年度 延べ利用 5933 日 (前年度 6109 日) 空室、入院、外泊延日 637 日 (前年度 461 日) - 介護保険収入 62,562,564 円 (前年度 60,422,596 円) 入居率 90.3% (前年度 92.9%) - 合計 (保険外含む) 79,862,556 円 (予算 80,000,000 円) ・感染症の感染者はいなかったが入院者、入退去者が多く入居率が大きく下がった。
	設備計画	・エアコンに変わるガスヒータの新設行った。 ・修繕箇所については適切に補修・改修を実施できた。
	研修計画	・本年度 4 件ではあるが研修に参加行った。社内研修については回覧等にて周知を行った
	要員計画	・令和 6 年度 介護職員入職者 0 名 退職者 1 名 他部署異動 1 名 (他部署へ) 0 名 (他部署より) ・職員の入職者はなく産休からの退職者が 1 名、パートで補っている。

	その他 (行事など)	・ 毎月行事を行い入居者様に楽しんでいただけるよう支援することができました。ご入居者様にコロナ感染は1名もなかった。 ・ 5月と9月の行事には、感染予防のためにご家族参加は行えなかった。
--	-----------------------	--

令和6年度 部門別事業報告

ケアハウス 部門

作成責任者 川久保一恵

作成年月日 令和7年5月15日

		上 期	下 期
業務改善目標		① 各入居者とコミュニケーションを取り、ニーズを把握し生活の安定や適切な助言を行うことができました。 ② 定例のミーティングを開催して、その都度課題の解決への勉強会での研鑽と接遇や人権についての知識を深めました。 ③ 感染対策に留意しながら出来る行事の実施に努めた。	① コロナ対応は落ち着いていましたが、インフルエンザ等の他の感染症対策の徹底を実施することで最小限で収束しています。 ② 感染対策は継続しながらも、出来る行事の再開を少しずつ行っていた。
具体的活動内容		① ご家族や関連機関、事業所等との情報提供や、共有を行いながら、生活の安定を目指して連携を図りました。 ② 感染予防のためにマスクや毎日の検温など、把握できる健康情報の取得とそれに伴った対応を行いました。 ③ ご入居者様それぞれのニーズを真摯に傾聴して、出来ることより活動しました。	① ご入居者様やご家族様の協力を得ながら、体調管理の面で早期に発見できたことや、他業種との連携もスムーズに実施出来ます。 ② 感染状況を踏まえて、各部署や他事業所への伝達も速やかに行いました。 ③ マニュアルを応用した的確な対応は出来ていると思います。
今期の計画・目標	収益計画	・入退去に関しては、ご入居者様やご家族様への説明責任を果たすことで、スムーズに行えています。 平均入居者数、46名です。 ・人員不足の中、業務の工夫をすることで、効率化につながるように努めました。	・施設の高齢化に伴い、急なご逝去や入院の方が増えていました。3月時入居者数、47名です。 ・職員の退職者や移動により最少人数での業務遂行に苦慮しました。業務効率化をさらに進めましたが、負担軽減には繋がっていません。
	設備計画	・設備の老朽化と、男女浴の不具合によりご入居者様へは迷惑をお掛けしました。	・設備不良があれば迅速に業者へ連絡し対していますが、浴室設備の老朽化や居室設備の不具合もあり、迅速に対応しています。
	研修計画	内部研修が主であり、外部研修は徐々に再開中です。	・健康レクリエーションや相談員の研修会参加を実施。
	要員計画	仕事量の把握し、時間を割り当てて対応しています。	時間的要因の不足があり、勤務時間での調整実施。
	その他 (行事など)	4月花見 5月母の日 6月父の日 踊りの会 9月秋祭り	11外出行事 12月クリスマス会 1月新年会 2月バレンタイン 手作り教室 (お菓子)

令和 6 年度 部門別事業報告書

ショートステイ 部門

作成責任者 西口 美保

作成年月日 令和 7 年 5 月 2 2 日

	事業計画	事業報告
業務改善目標	○ ショートステイ業務内容の見直しを行う。 ○ 新規利用者の積極的な受け入れやロングショートステイの安定した入所状況に努める ○ 居宅支援事業所、ご家族との連携を図り速やかに対応できるように努める ○ より良いサービスを提供する為にも利用者のADL把握に努める ○ 緊急ショートの要請は、ご本人様・ご家族様の健康状態を把握し感染症等の感染拡大に注意はらいながら出来るだけ受け入れるように努める ○ 関係各所への営業活動や無料体験利用を行い新規利用者の増加に努める	□ 定期的にフロア会議を実施し、職員間で情報共有を行い、業務やサービスの質の向上を図っています。 □ 空き状況のお知らせは毎月お送りしていましたが、居宅介護支援事業所等へ訪問することは出来ませんでした。 □ 新規利用者やあんしんショート利用者の受け入れは可能な限り受け入れを行いました。 □ 居宅介護支援事業所・ご家族様との連携が図れ、ADLの把握に努め、ご要望可能な限りに速やかに対応することができました。 □ 緊急でのショートステイ希望に感染対策を行いながら可能な限り速やかに対応できました。
具体的活動内容	○ 職員間で毎月話し合いの場定期的に設け意見を出しあう。又、日頃から職員間でのコミュニケーションを図り、利用者のADLを把握し情報を共用する事でサービスの質の向上に努める。 ○ 可能な限り事業所に足を運び、居宅介護支援専門員との連携を図り、空き状況などの伝達や情報交換を行い、定期利用者、新規利用者が増加できるよう努める。 ○ 介護スタッフとの連携を図り、ご家族・介護支援専門員へ速やかに状況報告ができるよう努める。 ○ ショートステイ独自の新聞を毎月作成し、サービス利用への入り口を広く持ち新規利用者の増加に努める。 ○ 特養生活相談員・介護支援専門員と連携を図り、特養入所待機者、希望者を把握出来る様に努める。	□ 介護支援専門員と連携をとり、新規利用者の増加に繋がりました。 □ 新規利用から定期利用やロングショートステイに繋げる事ができました。 □ 職員間での会議を定期的に開催し意見を出し合う事が出来た。又、疑問点や改善すべき事項に関してはその都度職員間で検討するなどの取り組みが出来、サービスの質の向上につながりました。 □ 特養入所希望者を把握し、特養入所まで円滑に行えました。またグループホーム入所希望者も同様に行えました。 □ 毎月ショートステイ新聞を配布し活動内容等をお知らせしていました。

今期の計画・目標	収益計画	☐ 月の収入 3,700,000円 ☐ 1日あたりベッド稼働数 9.0 ベッド ☐ 利用回数月平均 310回 ☐ 利用人数1日平均10名	☐ 月の収入平均 2,775,849円 (食事・居住費含む) ☐ 1日あたりベッド稼働率 5.9ベッド ☐ 利用回数月平均 234回 ☐ 利用人数1日平均 7.6人
	設備計画	☐ 居室の整備 (壁紙や扉の調整等) ☐ 各居室への加湿器設置とエアコンの入れ替え	☐ エアコンの故障なく交換なし。
	研修計画	☐ 各痰吸引の研修・その他外部の研修	☐ 他施設見学なし
	要員計画	☐ ショートステイ担当1名・多床室スタッフ1名	☐ ショートステイ担当0名
	その他	☐ ショートステイ独自の行事計画を実施 (余暇活動・外出援助の充実)	☐ 感染対策を行いながら、毎月季節に沿った行事を開催することができました。

令和6年度 部門別事業報告

ヘルパーステーション部門 作成責任者 三宅 有子

作成年月日 令和7年5月16日

業務改善目標		①法令遵守に基づく、サービスの向上と文書管理 ②今後も地域活動振興及び密着を目指す。 ③在宅サービス部門一体化による連携を図る ④利用者本位のサービスに努め満足を得られた ⑤認知症ケアの研修により対応に向上が出来た。 ⑥障がい者総合支援法のサービス向上が出来た。	⑦職員体制の維持に努めた ⑧職員の対応力レベルアップを図った。 ⑨コスト意識の徹底による事業所運営に努めた。 ⑩感染症対策の徹底による業務継続の取り組んだ ⑪BCP策定による安全確保の検討
具体的活動内容		・感染予防対策を継続し法令遵守についてサービス向上と文書を作成する。 ・事故報告5件(1件は救急搬送)あった。月例ミーティングにて再発防止を図り話し合う ・利用者アンケートは7月に実施。感謝の言葉、末永くお願いしたいなど満足している意見が多数であった ・ミーティングはヘルパー間密にならないように行い、2回に分けて行う事もあった。	・ヘルパー、利用者に感染予防対策を徹底し、利用者に罹患が発生した場合はサービスを控え、ヘルパー家族の発生時も経過報告し支援を中止、他のヘルパーで代行し問題なくサービスを継続できた。 ・障がい者2名をサービス継続している。 ・ヘルパールート効率化や駐車場の節約に努めた。 ・ヘルパーの健康状態や希望の仕事量を把握し安定的な勤務を図れるよう努めた。 ・認知症ケアの外部研修は受講できず、事業所内で検討した。
		上期	下期
今期の計画・目標	収益計画	平均 1. 858. 690円 (障がいサービス含む) 利用者 67名	平均 1. 693. 686円 (障がいサービス含む) 利用者 62名 (サ責3名から2名に変更、利用者数、実績減少した)
	設備計画		
	研修計画	・外部研修・・・なし ・同行研修・・・初回訪問時サ責と同行、ヘルパー交代時同行訪問 ・内部研修・・・4月～9月まで毎回開催する ・個人研修・・・仕事量や利用者対応の聴き取りをおこなった。不足している技能について指導し相談事を受け入れ助言した	・外部研修・・・なし ・同行研修・・・初回訪問時サ責と同行、ヘルパー交代時同行訪問 ・内部研修・・・10月～3月まで毎回開催する。 ・個人研修・・・仕事量や利用者対応の聴き取りをおこなった。不足している技能について指導し相談事を受け入れ助言した
	要員計画		退職・・・10月事務員1名、11月管理者(サ責兼務)1名、 12月登録ヘルパー1名、3月職員1名 入職等・・・10月登録ヘルパー1名常勤パートになる(事務員兼務) 3月パートヘルパー1名
	その他(行事など)	・地域行事やサロンの参加・・・コロナ感染対策のため中止となる。	・地域行事やサロンの参加・・・コロナ感染対策のため中止となる。

令和6年度 部門別事業報告書

居宅介護支援事業所 部門

作成責任者 小田 悦子

作成年月日 令和7年 年 5 月 13 日

		上 期	下 期
業務改善内容		・区や圏域での研修会が対面で実施できるようになり、検討や討論も活発で学びの多い研修を受けることができるようになった。 ・包括が主体となってケアマネージャー、介護事業所、地域の民生委員との意見交換の場を設定。民生委員との連携を図るうえで垣根が低くなっている。	・区や圏域での研修会に継続して出席。ケアマネジメント技術の向上のための研さんが行えた。 ・博多第4圏域事業者ネットワークが「ひつつきむしネット」として正式に移働。圏域の医療、介護事業所とつながりあって地域貢献ができるよう発足。
具体的活動内容		・ケアマネット博多研修受講。 ・博多第4圏域主催の民生委員との交流会に出席。 ・事業所内でのミーティングを行い、困難事例や日常業務における共通認識を持つことができた。	・ケアマネット博多研修会受講。 ・ひつつきむしネット定例会への参加。公民館活動の支援。
今期の報告内容	収益	(介護、総合事業、認定調査等の保険外収入の総計) 令和5年度上半期の平均月收入 634,471 円 前年度上半期の平均月收入 731,880 円 ・新規利用者を受け入れていたがそれを上回る施設入所やご逝去による終了が響いて減収となる。	(介護、総合事業、認定調査等の保険外収入の総計) 令和5年度下半期の平均月收入 595,383 円 前年度下半期の平均月收入 608,950 円 ・高い介護度の利用者が施設入所したり、冬季の入院者が多く減収となった。
	設備	・利用者の個人情報や書類整理の備品管理ができています。 ・個人記録について、5年経過後は責任を持って書類処分している。	・利用者の個人情報や書類整理の備品管理ができています。 ・個人記録について、5年経過後は責任を持って書類処分している。
	研修	・ケアマネット博多研修 ・圏域の勉強会への参加	・上期と同様
	要員計画	・ケアマネ2名体制の継続。	・ケアマネ2名体制維持。
	その他行事等	・特になし。	・特になし。

令和6年度 部門別事業報告書

介護相談センター 部門

作成責任者 三宅 有子

作成年月日 令和 7年 5月 16日

		上期	下期
業務改善目標		①法人本部との連絡が徹底できた。 ②地域からの情報を本部へ速やかに伝達することができた。 ③コロナ禍のため基本的には地域交流会は中止し状況に応じ計画した ④相談に応じて地域高齢者向けの介護サービス情報を発信した。 ⑤コロナ禍のため基本的に地域住民の方との交流はなかった。	左記に同じ
具体的活動内容		コロナ感染拡大となり3密を防ぐため相談センターへの出入りは控えさせて 頂いた。特に用件がある方には感染対策を十分にいただき対応した。 来訪者 65名 ①既利用者や家族による現況の相談 ②地域の民生委員から相談 ③ケアマネージャーからの情報 ④地域住民から本人や家族の介護についての相談 相談内容により愛心の丘、博多第4包括支援センターに紹介した。	コロナ感染拡大となり3密を防ぐため相談センターへの出入りは控えさせて 頂いた。特に用件がある方には感染対策を十分にいただき対応した。 来訪者 56名 左記に同じ 令和6年度にて相談センター閉鎖
今期の 計画・目 標	収益計画		
	設備計画		
	研修計画		
	その他(行事 など)		